

## 教員による授業紹介

### IT社会を生き抜くために

サイバーセキュリティセンター  
教授

岡村 耕二

(おかむら こうじ)

**サ**イバーセキュリティに関する正しい知識や基礎的な技術情報を持つことが、よりよい教育を受けたり、研究を行ったりするうえでとても重要になります。また、将来、IT社会を生き抜くために必要なことです。サイバー空間とはパソコンをインターネットに接続し、オンラインで使用している時だけではなく、インターネットに接続されていないパソコンやUSBなどの周辺機器をオフラインで扱っている時も含まれます。そのため、技術的なことはもちろん、法律、倫理に関する正しい知識と理解が常に求められます。また、文系、理系を問わず、全ての専門分野において共通的に必要なものです。さらに、我が国のサイバーセキュリティ基本法でも、大学は学生にサイバーセキュリティに関する教育を十分に行うことが定められています。このような背景で始まったサイバーセキュリティ基礎論ですが、春学期の8週で、1) サイバーセキュリティの概要や最近起きた事件の解説、2) 3) 身近なパソコンやスマートフォンといったICT機器のパスワード管理、データ管理、無線利用の安全な設定と使用について 4) 研究・情報倫理 5) 暗号技術 6) サイバーセキュリティに関する様々な法律 7) 著作権 8) サイバーセキュリティと社会について勉強します。評価は各講義の最後に毎回小テストを行い、総合的に行われます。また、シリアスゲームと呼ばれるゲーム感覚で復習ができるeラーニング教材も併用します。シリアスゲームは、バスを待っている間や電車に乗っている間などの隙間時間にゲーム感覚でできるので気軽に復習を試みようかなという気持ちにさせてくれるものです。このような色々な教材を使いながらサイバーセキュリティのことをしっかりと勉強してほしいと思います。

### 健康・スポーツ科学演習について



基幹教育院  
准教授

岸本 裕歩

(きしもと ひろ)

**基**幹教育科目の必修科目として開講されている「健康・スポーツ科学演習」について紹介します。「健康・スポーツ科学演習」と聞くと、多くの皆さんは「保健体育」の授業をイメージすることでしょう。しかし、この授業は皆さんのイメージとは異なります。では、どのような授業を行うのか。一つは、持久力や筋力、敏捷性や柔軟性、心の健康度などの測定を通じて、一人ひとりが自身の健康状態や体力レベルを把握する方法を学びます。もう一つは、このような健康・体力を維持・向上させるための身体運動およびライフスキル（ストレス対処、目標設定、リーダーシップ、コミュニケーションなど）のトレーニング方法について学びます。したがって、本授業では学生同士で体力レベルや各種スキルの習得レベルを競い合うことはしません。目標は一人ひとりが自身の心身の健康状態を把握し、自身に合ったライフスキルのトレーニング方法を見つけることです。ですから、運動・スポーツが苦手な人も安心して受講してください。

また、病気やケガ、障害などの何らかの理由により受講が難しい場合は、受講生の心身の状況に応じて授業内容をアレンジした健康・スポーツ科学演習（アダプテッド・コース）も開講しています。心身の状況に何らかの心配事などがある学生の皆さんは、キャンパスライフ・健康支援センターに相談してください。

## 教員による授業紹介

### 先史学入門： 考古学と人類史



人文科学研究院  
准教授  
辻田 淳一郎  
(つじた じゅんいちろう)

**新** 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。「先史学」は見慣れない用語かもしれませんが、これは広い意味で「考古学」という学問分野に属します。文系ディシプリン科目の中には「歴史学入門」と「先史学入門」があり、どちらも人類の過去の歴史を扱う分野である点で共通しますが、この両者の違いは、文字による記録があるかないか、という点によるものです。

人類によって文字が発明されてから約5000年が経過し、文字による記録がある時代のことを「歴史時代」と呼びますが、文字による記録がない時代のことを「先史時代 (prehistory)」と呼びます。こうした文字がない時代を扱う学問分野として誕生したのが「考古学」です。皆さんは、身近な博物館などで、発掘調査によって見つかった縄文時代や弥生時代の土器や石器、住居といった展示をご覧になったことがあると思います。こうした遺跡から出土した遺物などをもとに、過去の人類の文化や社会を復元する学問が考古学です。

考古学は、元々は文字がない時代を扱う分野として出発しましたが、最近では、例えば江戸時代や明治時代といった、文字による記録が豊富な時代の研究（歴史考古学）もさかんに行われています。「先史学」は、長い人類史の中でも、特に文字記録がない時代を対象とする考古学＝先史考古学を指します。先史学入門の授業では、先史学も含めた考古学の考え方や調査・研究方法、また具体的な研究成果などについてご紹介しながら、広く人類の歴史を学ぶ方法や歴史についての考え方を学んでいきます。高校までの歴史の授業とは異なる、「学問」として研究する歴史の面白さにぜひ慣れていただきたいと思います。

### 集団生物学のススメ

理学研究院  
准教授  
佐竹 暁子  
(さたけ あきこ)

**「地** 地球上に存在する生物はどのようにして多様なの?」「どうしてオスとメスがいるの?」「どうして違う個体同士は協力するの?」「新しい種はどのようにして生まれるの?」

皆さんはこれまで、こうした疑問をもったことはあるでしょうか? Darwinの自然選択説が誕生して以来、上の問題は生物学分野を越えて大きな論争を呼んできた難しい問題でした。自然を注意深く観察すると、直感に反する行動をする生物がたくさん存在することに気づきます。アリなどの社会性昆虫では子供を生まず働くだけで生涯を終える個体がありますし、鳥類や哺乳類では、親がそれまで大事に育てた子を巣から追い出す行動が頻繁に見られます。集団生物学では、こうした一見不思議な生物の振る舞いがなぜ進化してきたのか、そのロジックを探ります。また古くから議論されてきた進化や生態学に関する問題にたいして、最近のゲノム科学の発展を取り入れることで、遺伝子レベルで答えを出せる時代になりました。こうした新しい取り組みも紹介します。

#### 生態系の一員として地球のこれからを考える

野外でみられる生物を研究しその進化の歴史を知ることが、近年まで増殖し続けて様々な環境問題を生み出している私たち人類の将来を考えるときにも役立ちます。古くから人類は狩猟や農耕によって環境を改変してきました。この環境の改変が行き過ぎて、生態系の基盤となる食物連鎖や物質循環のバランスを超えてしまうと、人間社会の存続自体が危ぶまれるようになります。過去に絶滅した生物の歴史から学び、いま生態系の一員として何ができるのか考えたいと思います。

大学での学びは高校までの学習とは違って、まだ答えのない問題に対するチャレンジです。皆さんのフレッシュな頭脳は、可能性に満ちています。生物の不思議な振る舞いがなぜ進化してきたか、まだ誰も提案していない新しいアイデアがきっと生まれると期待しています。

## 教員による授業紹介

### 韓国語の堂奥に迫る

言語文化研究院  
准教授

辻野 裕紀  
(つじの ゆうき)

筆者の「韓国語IIIII」は、「言語文化基礎科目」に分類される講義で、韓国語の基礎的な力量の涵養を目的とするものです。しかし、同時に、韓国語を学ぶことを通して、言語とは何か、言語学習とはいかなる営みか、などといった問題を思念する契機になりうる授業でもあります。

例えば、私たちはよく「ことばはコミュニケーションの道具である」という言説を耳にします。しかし、この凡庸な物言いは、言語の様々な側面の極一部しか把握していません。批判的思考力を具備した大学生であってみれば、こうした言語観を軽々に肯じてはなりません。言語はもっと深いものです。例えば、言語は人間の思考と相即しています。両者は相互干渉的で、思考は必ず言語を随伴します。サピアの言を借りて、言語は思考を可能にし、思考は言語を洗練する（『言語：ことばの研究序説』）と言ってもよいでしょう。私たちの思考は、思わず識らず、母語に繫縛されています。非母語を学ぶとは、かかる母語のイドラから解放され、思考の布置結構が自ずと改鑄されていくプロセスを体験することです。また、非母語に完全に同化してしまうのではなく、あわいの津梁に佇立することで、母語がこれまでとは異なった形で新たに活現するのを目撃することでもあります。このように、血湧き肉躍る言語学習の妙味を翫味しつつ、韓国語の堂奥に迫っていく——志さえ高く持てば、韓国語の授業は必ずや豊かな時間になりましょう。

### 地球と宇宙の科学

基幹教育院  
教授

野口 高明  
(のぐち たかあき)

九州大学の基幹教育で、はじめて地球科学を大学で習うという学生向けに開講されているのが、地球と宇宙の科学という科目です。この科目はクォーター授業という7回の授業を行い8回目にテストをするという短い授業です。この7回で地球と宇宙という広い範囲についてお話することになりますので、高校の地学全般を話すことはできません。一方では、その少ない回数で地球惑星科学（大学では、太陽系科学と地球科学を合わせてこういう言い方をします）について、大づかみに知ってもらおうとしています。

私の授業では、元素の起源ということから始めています。元素に起源があるということは、今まで皆さんは考えたことがあったでしょうか？また、この話をするときには、原子・元素・同位体といった用語の説明も行っています。これは中学以来、化学に接したことのない学生に対応するためです。そして、そうした元素を使って、太陽系の形成、太陽系、地球の構造、プレートテクトニクス、地球の歴史といった順番で進めています。この授業にあわせた電子テキストも作成して、授業中に配布しています。また、大人数の授業であるため、毎回集めた質問には、Moodle上で回答を公開しています。授業終了後も地球惑星科学に興味を持ち続けてもらえたらと思っています。